

## 横浜トリエンナーレって？

「横浜トリエンナーレ」は、横浜市で3年に一度開催される現代アートの国際展です。2001年に始まり、今年で8回目を迎えます。今回は、北京を拠点に活動するリウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）がアーティストック・ディレクターを務め、「野草：いま、ここで生きてる」をテーマに、世界中からさまざまなアーティストの作品を選出しました。ぜひ会場で作品に出会い、たくさんのことを発見してください。

### 「野草：いま、ここで生きてる」とは

「野草」という言葉は、1927年に中国の小説家、魯迅<sup>ろじん</sup>が発表した詩集『野草』からとられています。中国では1911年に辛亥革命が起こり、激動期を迎えます。時代の波に翻弄された魯迅は、絶望の中に小さな希望を見出す自らの生き方を、もろくて無防備で、しかし同時にたくましく生き延びる力を持つ野の草にたとえました。いま、世界はコロナ禍や戦争、環境破壊、経済格差などさまざまな困難に直面しています。それは魯迅が生きた時代に重ね合わせることができるかもしれません。世界中から集まる現代アーティストたちの作品を通して、いまのわたしたちの生き方をふり返り、その先にある希望を見出しましょう。



### リウ・ディンとキャロル・インホワ・ルーからのメッセージ

「野草」には、私たちが体験したように、ひとつの世界—きめ細かな砂や激しい嵐、小川や岩、夜空や遠く離れた場所—が描かれています。そこで私たちは、過去と現在に潜む闇や痛みを目の当たりにし、花びらと星の光に目を向けるのです。私たちがもらったこの贈り物をあなたにお渡しします。あなたが野草のように、踏みつけられても立ち上がり、自分の意思を貫き通すことを願って。



### ●美術館が初めての人も大歓迎

美術館で作品のパワーを感じたり、気になる作品を写真に撮ったりしてみてください。

### ●全部みなくてもOK 好きなところからみよう

会場にはたくさんの作品があります。まずは全体を眺めて気になるものからみてみましょう。どこから始めても構いません。疲れたら休憩できる場所もあります。

### ●わからないことも楽しもう

少しみただけではわからないものもあるかもしれません。まずはじっくりみて、全体と細部を観察したら、作者の考えや思いを想像してみましょう。作品の隣にある「キャプション」も理解の助けになるはず。それでもわからないことは、ナゾのままでも大丈夫。

### ●誰と一緒にみる？

作品をみて気づいたことや感じたことを誰かと話してみるのもおすすめです。同じことを考えているかもしれないし、違うかもしれません。ナゾが解決するかもしれないし、もっと深まるかもしれません。作品を通して、一緒にみる人の新たな一面を発見するかも。

### みんなが気持ちよく過ごすために気をつけたいこと

作品を大切に  
作品やケースには  
触らないようにしましょう

声の大きさに  
気をつけよう  
静かにみたい人に  
配慮しましょう

メモは鉛筆で  
ボールペンや  
シャープペンシルは  
作品を傷つける  
可能性があります

撮影表示を  
確認しよう  
会場には撮影できる作品と、  
できない作品があります